

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

父の日に牛乳を贈ろう！
今年も全国各地で
キャンペーンを実施！

第43回らくのうこどもギャラリー入賞作品紹介

酪農とのかけはし／山口 兼次郎さん

購買部だより

DMSシステム 平成27年集計結果



酪農トピックス／

「美濃酪連 2016酪農まつり」開催される一岐阜県 美濃酪農農業協同組合連合会（名古屋）
芹川恵介さん（経営・熊本）、横井直彦さん（意見・沖縄）が全国大会へ！
一第45回九州酪農発表審査会（福岡）ほか

酪政連活動報告

日本酪農見て歩紀（宮城県涌谷町 齋藤牧場）



7

2016 July No.610



全国酪農業協同組合連合会

父の日に

牛乳^ちを贈ろう!



〳〳 今年も全国各地キャンペーンを実施! 〳〳

全国酪農青年女性会議による「父の日に牛乳^ちを贈ろう!キャンペーン」が、今年も全国各地で開催されました。今年4月末～父の日である6月19日(日)を中心に、地域の特色に合わせた活動を全国で展開しました。今月号では、各地で実施されたキャンペーンの一部をご紹介します。

北海道

北海道酪農青年女性会議は、6月1日及び13日の2日間、千歳市の保育園・幼稚園を訪問しました。今年も牛と牛乳に関するクイズをおこない、答えに合わせて、牛の体の仕組みや牛乳ができるまでをイラストを使ってわかりやすく説明しました。先生や参加した委員がクイズを出すと、園児たちは一生懸命考え、正解するととても嬉しそうに大きな声をあげたりジャンプをして喜んでいました。

6月1日に訪れた住吉保育園では、子どもたちによる「うしうしサンバ」が披露され、参加者も元気をもらうことができました。牛乳を飲んで家族みんなが健康に過ごせるように、牛のはなこちゃんから牛乳とミルメークをプレゼントしました。



岩手

●消費拡大PR

6月5日(日)、岩手県歯科医師会による第11回「8020健康フェスタ」内において、『父乳キャンペーン』を行いました。当日は、休日であったこともあり多くの親子連れが来場し、無料配布のために準備した牛乳があつという間に無くなるほど盛況となりました。



●山形ミルクランド モウモウフェスティバル

6月25日(土)、山形県酪農協では置賜支所を会場に、消費者との交流を図るためのモウモウフェスティバルが開催されました。当日は、「父の日に牛乳を贈ろう」と来場者にツールを配布し、輪投げ大会や手作りバター体験などが催されましたが、チビッツに大人気だったのはトラクターの乗車記念撮影会。写真はその場でプリントアウトされ、宅配牛乳申込書と一緒に手渡されました。

山形



福島

●県庁訪問

6月8日(水)、「父乳」キャンペーンとして、小野和彦福島県農林水産部長へ、佐藤正仁福島県酪農青年研究連盟会長より福島県産牛乳を寄贈し、「美味しい牛乳を飲んで元気になろう!!」とのかけ声で、牛乳で乾杯致しました。



●搾乳体験

6月19日(日)、郡山市愛情館の“感謝を込めて15周年フェア”にて、「搾乳体験」や「子牛のふれあい体験」、「子ども牛乳早飲み大会」などを行い、父の日に乳(牛乳)を贈ろうキャンペーンのPRを行いました。



東京

●『ぐんまちゃん家』での理解醸成活動報告

去る6月18日(土)に群馬県酪農青年女性会議連絡協議会、関東甲信越酪農青年女性会議(が主催する理解醸成活動が東京都中央区銀座にある、ぐんま総合情報センター「ぐんまちゃん家」において開催されました。翌日が「父の日」であったことから「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーンも併せて実施され、グッズやパンフレットの配布を行い、銀座への観光客も多かったことから大盛況で終わることができました。



●東海農政局長へ牛乳の贈呈

中部酪農青年女性会議は、6月9日(木)に東海農政局を訪れ、田辺義貴東海農政局長に牛乳を贈呈し、牛乳の消費拡大のPRを行いました。

贈呈後、小平均東海農政局次長の発声により牛乳で乾杯を行い、来る7月14日地元開催の全国酪農発表大会、本キャンペーン活動等に関する情報交換を通して生産現場の思いを行政に伝えることができました。



東海

愛知

●優秀作品に乳製品を贈呈

愛知県酪農農業協同組合青年女性部は、子供からお父さんへのメッセージコンテストを実施し、6月19日(日)の父の日に、その優秀作品に選ばれた子供のお宅を訪問し、子供からお父さんへのメッセージ朗読、乳製品贈呈、牛乳で乾杯を行い、もっともっと牛乳を飲んでいただくようアピールしました。



岐阜

● 古田県知事へ牛乳を贈呈

6月9日(木)、岐阜県酪農青年女性会議は、牛乳の消費拡大を目的に、古田県知事に牛乳を贈呈しました。



● 幼稚園訪問

三重県酪農女性
会議は、6月16日

(木)に三重県津市立翼ヶ丘幼稚園を訪れました。牛さんが来るのを心待ちにしていた園児たちは大喜びで、一緒にクイズを楽しんだり、紙芝居を観たあと、おみやげに牛乳をもらおうと喜んでおうちに持って帰りました。また、園児を迎えにきた保護者にも牛乳をアピールしました。

三重

岡山

● 伊原木県知事へ牛乳を贈呈・岡山駅前でPR活動

6月2日(木)おかやま酪農業協同組合では、青年部・女性部・酪政連の各代表者11名が、岡山県産牛乳と乳製品の美味しさをPRするため、岡山県庁を表敬訪問しました。東山組合長は「県主催の各種会議やスポーツイベントなどで県産牛乳を活用していただきたい」と県産牛乳3000本の目録を伊原木知事に贈呈しました。また、権田女性部委員長が牛乳をコップに注ぎ、知事に飲んでいただきました。

夕方からは、JR岡山駅前で県内乳業メーカーなど関係者の応援をいただいて、PR景品を配布するなど、牛乳月間のキャンペーンを展開しました。



▲ キャンペーン景品の配布

● 山口県酪農青年女性会議は山口県酪農乳業協会と共催で、6月12日(日)山口市の「道の駅きららあじす」において、

消費拡大イベント「MILK JAPAN in あじす～父の日に、ちちを飲んでガンバロー!～」を開催しました。会場では、山口県産牛乳の試飲、ミルクぜんざいの試食、キットによる搾乳体験、キャンペーン景品の配布などによるPR活動を行いました。当日はあいにく小雨模様でしたが、多くのお客さんで賑わいました。

山口

愛媛

▶ 中村時広知事と共に



● 中村県知事へ牛乳・乳製品贈呈

6月8日(水)愛媛県酪農経営者協議会は、愛媛県庁を訪問し県民の父である中村時広知事に牛乳・乳製品を贈呈し、県産牛乳の消費拡大を要請しました。県立とベ動物園とのコラボ牛乳、今年の人気者チンパンジー親子スズミとミライをデザインしたパックですが、中村知事はゴクゴク飲み干されました。また、29年9月30日から開催される愛媛国体を応援するため「愛顔をつなぐえひめ国体牛乳」が発売されましたが、県知事はパックを手にとって、愛媛国体の成功と県産牛乳の愛飲をアピールされました。

鳥取

● 鳥取県の父代表平井知事に牛乳を寄贈

6月10日(金)、大山乳業農業協同組合と同組合の青年部会・女性部は平井伸治鳥取県知事を表敬訪問し、仕事を頑張っているお父さんに牛乳を飲んでもらい元気を出してもらおうと、鳥取県の父である平井知事をはじめ皆さんに、牛乳(バスチャライズ牛乳200ml)1000本と乳製品を寄贈しました。平井知事は牛乳を飲んで「だ～いせん(断然)おいしい」などと得意のダジャレを連発されました。その後県庁食堂に移動し、寄贈した牛乳の内200本を食堂利用者に配布し、もっと飲んでくださいと消費拡大をPRしました。



◀ 県庁食堂にて牛乳を配布

▶ 平井知事と参加者の皆さん



● イベント開催

6月12日(日)、大分市の商業施設「パークプレイス大分」にて、大分県酪農青年女性会議と大分酪農青年同志会が中心となり、搾乳体験および子牛ふれあい体験を実施しました。200人分の搾乳体験の整理券は10分程度でなくなるほどの盛況ぶりでした。また、施設内でAMラジオの生放送もあり、同青年女性会議の小野委員長が酪農・牛乳についてアピールを行いました。

大分



◀ 搾乳体験に長蛇の列

▶ 父の日に乳を搾ろう!



長崎

● ブース出展

6月19日(日)、長崎県酪農青年女性会議は、雲仙市小浜町「マリパーク」において、ツールと共に牛乳・ヨーグルトを配布し、牛乳乳製品のPRを行いました。



▲ テント前は大行列

● 配布活動

6月9日(木)、筑後地区酪農青年部・女性部は筑後市のJA直売所「よらん野」にて牛乳・グッズを配布し、消費拡大に努めました。消費者の方から「毎日飲んでます」と嬉しいお声も頂きました。

福岡



▲ 筑後市JA直売所「よらん野」

佐賀

● 保育園訪問、 試飲・配布活動

JAグループ佐賀・佐賀県酪農婦人部連絡協議会は6月1日(水)牛乳の日に、就学前の園児に栄養豊富な牛乳を飲んで健康で元気になってもらおうと、武内保育園園児へ牛乳を贈りました。また、14日(火)、15日(水)両日にJA産直「街かど畑」「Aコープからつ」にて県産牛乳試飲とツールを配布し消費拡大に努めました。



▲ 佐賀市内JA産直「街かど畑」にて

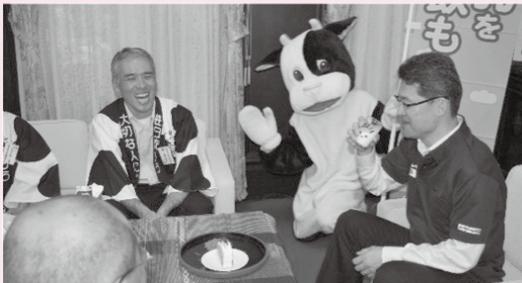
▼ 「武内保育園」で園児とともに…



宮崎

● 県知事等へ牛乳贈呈

6月1日(水)、宮崎県酪農青年女性連絡協議会は、河野俊嗣知事、内田欽也副知事らを訪問し、牛乳乳製品を贈呈しました。また、県内各地域19カ所の市町村長・JA組合長などへも牛乳乳製品を贈呈しPRを行いました。



▶ 河野県知事に県産牛乳を飲んでいただく



▲ 県産牛乳をふるまう

熊本

● 試飲・配布活動

熊本県酪農青壮年部、女性部、らくのうマザーズは6月18日(土)、大型ショッピングモールゆめタウン光の森(菊池郡菊陽町)にて、ツール配布によるキャンペーンPR活動に加え、買い物に訪れた消費者およそ550名へ、よく冷えた県産牛乳をふるまい、キャンペーンを盛り上げました。

鹿児島

● 県知事等へ牛乳贈呈

6月1日(水)、鹿児島県酪農青年女性会議は、昨年結婚された酪農後継者数名、内匠秋夫代表理事組合長と共に、伊藤祐一郎知事を訪問し、牛乳乳製品を贈呈しました。また、別日に西之表市、中種子町、南種子町も訪問し、牛乳乳製品をPRしました。



● 副知事等へ牛乳贈呈、 イベント開催

沖縄

6月10日(金)、沖縄県酪農青年女性部連絡協議会は浦崎唯昭副知事を訪問し、牛乳を贈呈し活動をPRしました。また、6月18日(土)にはイオン南風原店にて、お父さんの絵を書いてくれた児童先着150名へ横井牧場のアイスクリーム無料試食も行いました。



▶ 浦崎副知事と牛乳で乾杯!

▶ お父さんの似顔絵を描いてくれた児童へアイスクリーム無料試食



らくのうこどもギャラリー

入賞作品介绍

今年も「らくのうこどもギャラリー」に多数ご応募いただきありがとうございます。総応募点数は674点で、昨年と比べ86点多い応募になりました。その中から12点の入賞作品を選出させていただきました。



特選

「お母さんの牛乳 最高!」

岡山市立芳泉小学校(西日本・岡山)5年

岩谷 龍

母牛の乳に鼻を押し付けて懸命にミルクを飲む子牛の様子が生き生きと描かれています。黒くつぶらな瞳や柔らかそうな毛並みの描き方、母牛の乳の繊細な色使いから生命力の力強さと母牛の愛情に包まれた子牛の安心感が伝わってきます。

●全体の作品について

先ずはじめに、4月14日に発生した熊本地震で甚大な被害を受けられた九州地方の酪農家の方々をはじめ被災されたすべての方々に心からのお見舞いを申し上げます。

今年の応募作品には水彩やクレヨン、色鉛筆などの画材を自分のイメージになるまでこだわった作品が多く見られました。例年以上にオリジナリティに富み迫力がある作品群の中での審査となりました。審査後、受賞者に2組の姉弟が含まれているという珍事が判明しました。

特選は、岩谷龍くんの「お母さんの牛乳 最高!」に決まりました。親子の絆が画面いっぱいに感じられる愛情溢れる作品です。入選1、入選2は姉弟での受賞となりました。入選1はお姉さんの土山希望さんの作品「もりもりえさを食べる牛」クレヨンとは思え

ないほど繊細で丁寧な描き方が希望さんにしか描けない優しい画面を作り出しました。入選2は弟の勇作君の作品「エサを食べる牛たち」元気溢れる大胆な構図と力強いタッチで描いています。2点とも個性が光る作品です。そしてファミリー賞2の足立真奈さんとあすなる賞1の足立雄星君も姉弟受賞。お父さんは兵庫県で足立牧場を営んでいます。そんな二人の作品からは牛さんに対する親近感が伝わります。他の受賞作品も皆、着眼点や表現方法がユニークで他の人には描けない素晴らしい作品ばかりでした。

最後になりましたが、第43回らくのうこどもギャラリーに応募してくださった皆様、作品制作に協力していただいた酪農家の皆様、ご指導いただいた先生方、そして関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

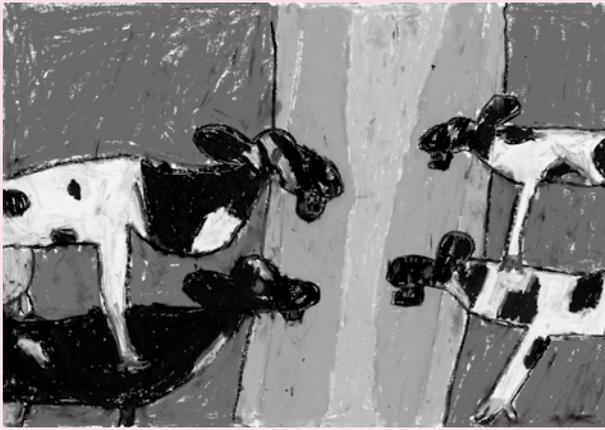
宮島 径／写真家
(みやじま・けい)

1967年 長野県生まれ。
1991年 東京藝術大学美術学部芸術学科 卒業。
1993年 デーリイマン写真部入社
1997年 フリーランス・カメラマンとなる。

個展：2002年 「surface」(PLACE M, 東京)
2006年 「世界のしくみ」 featuring 麻里布栄 (PLACE M, 東京)
2010年 「日照時間 / The Daylight Hours」 (ギャラリー蒼穹舎、東京)
2016年 「One Another」 (喫茶&ギャラリーウィリアムモリス、東京)

浅野 智／画家
(あさの・さとし)

1964年 神奈川県生まれ
1991年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業
1993年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻 (油画) 修士課程 修了
1997年 第5回 風の芸術展 ビエンナーレ まくらざき 賞候補
2000年 第11回 関口芸術基金賞 優秀賞
2001年 第12回 関口芸術基金賞 大賞
その他 個展、グループ展多数
NPO法人withART 代表理事



入選2

「エサを食べる牛たち」

美祢市立秋吉小学校(西日本・山口)2年
土山 勇作

迷いのない力強いタッチが画面に勢いを与えています。上から見た俯瞰の構図でエサを食べる牛さんたちをクレヨンを用いてハイセンスな色使いで表現しています。形の捉え方もユニークで魅力的です。



入選1

「もりもりえさを食べる牛」

美祢市立秋吉小学校(西日本・山口)4年
土山 希望

柵から顔を出してえさを食べる牛さんが描かれた作品です。柵の固い直線に対して牛さんや草のやわらかな曲線の対比が見事です。特に草の部分は幾層も色が重なり合い絵に深みが出ています。



入選4

「うしさんのちちをしぼってたのしいな」

坂戸市立大家小学校(関甲信・埼玉)1年
菅野 寧々

画面いっぱいに大きな牛さんと友達と一緒に描いた作品です。クレヨンを力いっぱい使ってパワフルに描いています。乳搾りのみんなの表情が笑顔で楽しそうですね。



入選3

「あっ こっち見た」

練馬区立大泉東小学校(関甲信・東京)6年
小室 和歌

牛さんが振り向いた瞬間が素描のような軽いタッチで描かれています。牛さんの足や樹木の幹など強い線もあれば、空や地面にはやさしい線が見て取れます。簡素な表現のなかにも強弱のきいたメリハリのある作品だと思えます。

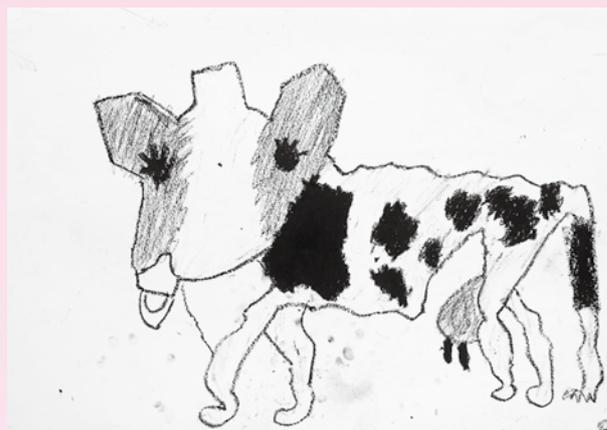


秀作2

「うしを見たよ」

小城市立三里小学校(九州・佐賀)2年
山田 乃愛

クレヨンと水彩絵の具を巧みに使い画面を作っています。ピンクの画面が印象的です。4頭描かれている牛さんの形が独特で惹きつけられます。画面左上にあるオレンジ色のタンクが画面に色彩的な緊張感を与えています。



秀作1

「うしがおおきかったよ」

西尾市立室場小学校(中部・愛知)1年
近藤 紅

べにさんにしか描けない個性的な牛さんです。ごつごつした顔や背中、おなかのくぼみ、やわらかそうな足などについて目が引き寄せられます。画面全体から力強さが伝わってくる作品です。



ファミリー賞1

「うしさんのおいしい牛乳」

総社市立総社北小学校(西日本・岡山)2年
御厨 穂香

牛さんを中心に人や花などがたくさん描かれた元気のある作品です。クレヨンと水彩による絵肌の面白さや、牛さんの毛並みが細かい線で一本一本描かれ、生き生きとした絵に仕上がってます。



秀作3

「はじめての乳しぼり」

会津若松市立日新小学校(東北・福島)4年
伊藤 紅葉

牛さんと酪農家さん、乳をしぼる人が画面にうまく配置できましたね。牛さんの恍惚とした表情もいいです。牛さんのからだの斑紋は絵具が厚塗りされ、特に白い部分は色が多く塗り加えられていて丁寧さを感じました。



あすなろ賞1

「みんなかおがちがうんだよ」

丹波市青垣保育園(西日本・兵庫) 6才
足立 雄星

今回最多の24頭の牛さんを描いてくれた雄星くんの作品は題名通り一頭として同じ顔のないバラエティに富んだ牛さん達に仕上がっています。いつまで見ても飽きない、いつ見ても新鮮な発見がある面白い作品になりました。



ファミリー賞2

「いたらいいな。にじから生まれたにじ色の牛」

丹波市立芦田小学校(西日本・兵庫) 3年
足立 真奈

なんとも美しいカラフルな牛さんが4頭、虹と共に描かれています、そして左手前の牛さんはお尻を可愛くフリフリしています。牛さんを愛情豊かな視点で捉えています。大人には出来ない自由な発想の楽しい作品です。



あすなろ賞2

「牛の日常」

北陽幼稚園(北海道・千歳) 5才
渡邊 雄大

牛さんの顔や体に塗られた白い色の筆跡に勢いあって良いです。左下に描かれたなぞのいきものもかわいらしいです。5才ならではのシンプルで力強い表現が印象的です。



▲ 山口 兼次郎さん

獣医師として広島や熊本で勤め酪農と向き合ってきましたが、自分のやりたいことと組織の考えの間に微妙なズレを感じるようになり、自分で会社を立ち上げようと一念発起しました。

平成元年に念願の会社「(有)エッグ」を立ち上げ、診療業務で巡回をしていた折、急激な円高にも

その職業に携わるようになった理由・就職までの道のり・やりがい

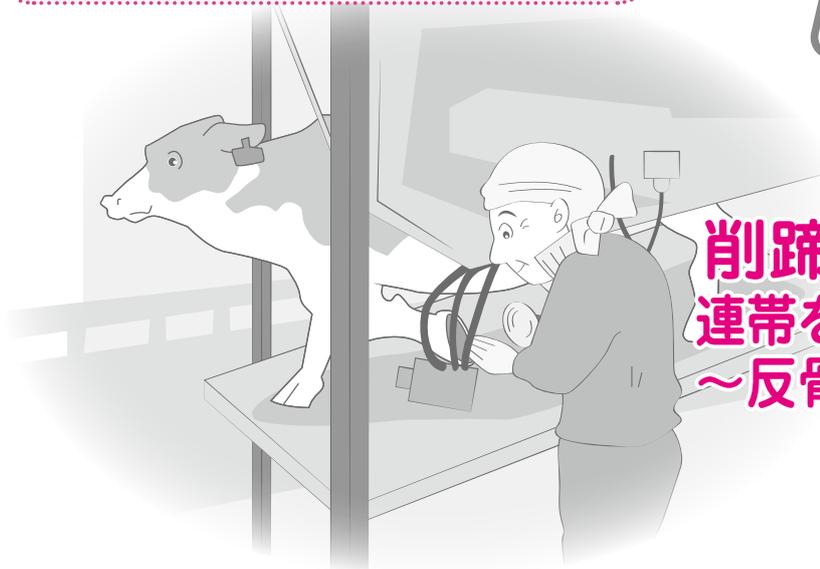
削蹄事業と畜産関連機材の輸入販売事業を行う(有)エッグ代表取締役 山口 兼次郎さんにインタビューさせて頂きました。

山口 兼次郎 さん

68歳・熊本県菊池市在住。
愛媛県宇和島市出身。獣医師として乳業メーカーや農業団体で活躍後、平成元年に(有)エッグを立ち上げる。

仕事内容

現在、従業員11名と共に、削蹄、輸入販売業、診療を行い、九州各地で活躍される。



削蹄は「ロック」だ！
連帯を求めて孤立を恐れず
～反骨、老骨の削蹄闘士～



山口 兼次郎 さんの 1日のタイムスケジュール

3:30	4:00	5:00	5:30	5:40	12:00
事務所集合、準備	事務所出発	牧場到着、削蹄枡場移動	削蹄機材設置 牛舎が空くと直ぐに削蹄機材設置	牛がパーラーに移動し牛舎が空くと直ぐに削蹄機材設置 順次削蹄開始	削蹄枡場2台で120頭の削蹄

(各牧場の作業時間と重ならないよう時間を調整されています)

※取材当日は三回搾乳の大型牧場のため、全頭終わるのに数日かかるとのことでした。最終日はこの後、削蹄機材の洗浄に2時間程度要します。

かわならず、「輸入品が高すぎる」という農家からの声を聞きました。そこで、好機と思い動物医療用機器の「製造業」と「製造販売業」の許可を取得し、診療業と輸入販売業を行う会社となりました。

1人で会社運営を行っていましたが、たまたま知り合いの獣医師が蹄の治療をしているのを見て、これは面白そうだと感じ、削蹄業界にチャレンジしたのが58歳。それから10年が経ち、従業員も雇用し、チームで削蹄に取り組んでいます。

「自身の仕事と酪農とのかかわり」

顧客は100%酪農家です。酪農の話題については常にアンテナを高く上げ情報収集に努めています。指定団体制度、TPP、アウトサイダー、ロボット搾乳、クラスタ等。酪農雑誌、業界紙も必読。また牧場に入ります。機械屋さん、エサ屋さん、薬屋さんなど他業種の方々の情報交換も必須。ホットな情報を社内で討論することで共有を図ります。「蹄(ツメ)」に関することはもちろん



▲ 油圧搾場を使用した削蹄の様子

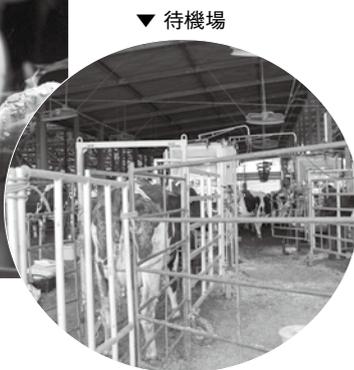
ですがそれ以外の知識を身につけることがよりよい「蹄の仕事」につながります。そこが目指す「ロツクな削蹄」の真骨頂だと思っております。

山口先生から見た酪農の魅力とは？

一言で言うと、何でもアリな所でしょうか。常識では計り知れない方法で経営を成功させている方もいらつしやいますし、何が正解とは言い切れない所ですね。不確かな所を探る楽しさもあると思います。



◀ 削蹄の様子



▼ 待機場

実は、私も以前、診療の合間に3頭搾乳牛を飼っていたことがあったのですが、そのときに初めて恥ずかしながら酪農家の大変さが分かりました。獣医師の立場からしか酪農家を見ていなかったのですが、酪農家という人種(?)に対するリスペクトを感じましたね。各人各様、みなさん「ロツクな生き方」をしているところが大好きです。

今後の酪農業に望むこと

この業界が長いので、望むことも無くなつてきていますが…(笑)。今後酪農業界がどうなっていくのかには興味があります。

今でもすでにそうなっています。酪農経営は今後はますますエリートのように可能な仕事となっていくでしょう。それを想像すると何故か武者震いがします。

全国の酪農家に一言!



虎穴に入らずんば虎子を得ず。飛び込むことで掴み取れるものはあると思います。色々なことにチャレンジしてみたいかがでしょうか。

DMSシステム

平成27年集計結果

1 DMSシステム参加農家が447戸となりました

DMSシステムは、今年で9年目を迎えています。年々参加者が増加し、平成28年3月末日時点では447戸となりました。

図1は参加農家戸数の推移をプラン別に集計したものです。「Aプラン」は本会が紹介している会計ソフト（『e酪農経営』）を酪農家自身が入力するプラン、「Bプラン」は記帳代行を依頼するプラン、「Cプラン」は記帳代行に加え申告書の作成を税理士に依頼するプランとなっています。「それ以外」はDMSシステムのデータベースを利用した経営分析及び経営相談の依頼を受けた戸数を表しています。

昨年から今年にかけ、①経営継

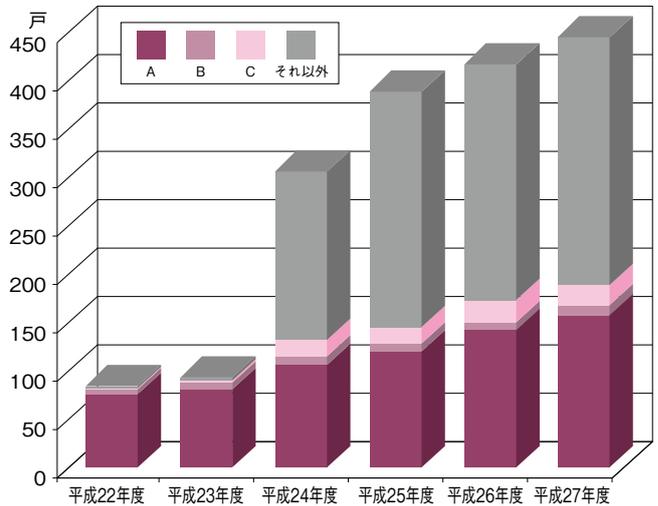
承や法人化に関する相談、②後継牛確保戦略に関する相談が増加しているのが特徴です。DMSシステムではこれらの課題に対し、「酪農経営シミュレータ」を利用した牛群動態や資金繰りの予測を行っております。

今後もDMSシステムは、単なる経理処理のサポートだけではなく、経営者の重要な意志決定をサポートしていきます。

2 酪農経営の状況

表1は平成26年と平成27年のDMS参加農家の平均値を比較したものです（単位は経産牛1頭あたりに換算してあります）。集計対象農家は①平成23年以前からDMS

図1 DMSシステム参加農家戸数（H28年3月末時点）



	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
A	76	81	106	120	142	151
B	5	7	9	8	8	12
C	1	2	17	17	17	19
それ以外	2	3	174	243	249	265

システムに参加しており、②東北大地震の影響が無く、③経理処理方法に変更がない農家です。各年とも同一農家53戸を集計しております。

因について見ていきましょう。

(1) 家族所得は15,037円／頭増加

(2) 全ての売上部門が増加

経産牛1頭あたりの家族所得は平成27年175,307円、(前年比+78,028円／頭)となりました。所得の増加は、総収入が116,677円／頭増加したのに対し、総支出が38,649円／頭の増加に抑えられたことによります。以下、家族所得の増加要

生乳売上高は飲用乳価上昇等により36,344円／頭増加、肉用子牛売上高は相場が堅調に推移したことを受け38,995円／頭増加しています。廃用牛売上高についても引き合いが強かったことから、15,390円／頭の増加となりました。

このように、総売上高に占める肉用子牛と廃用牛売上の割合が高くなってきていることから、酪農

表1 酪農経営の変化 経産牛1頭あたり(円)

	H26	H27	差
牛群動態/主な指標			
経産牛頭数	62	61	-1
更新率	27.1%	26.5%	-0.6%
死廃率	9.4%	9.7%	0.3%
乳飼比	58.0%	55.8%	-2.2%
家族所得率	8.4%	13.1%	4.7%
総収入	1,157,017	1,273,694	116,677
生乳売上高	941,153	977,497	36,344
肉用子牛売上高	70,662	109,657	38,995
廃用牛売上高	24,311	39,701	15,390
その他売上高	30,629	31,300	671
雑収入	90,262	115,539	25,277
総支出	1,059,738	1,098,387	38,649
雇人費	35,456	37,457	2,001
飼料費	545,869	538,932	-6,937
診療衛生費	22,994	26,777	3,783
動力光熱費	50,517	47,688	-2,828
共済掛金	35,556	32,388	-3,168
修繕費	30,838	39,025	8,187
支払利息	4,458	4,381	-77
減価償却費	137,197	145,763	8,567
その他経費	196,854	225,975	29,121
家族所得	97,279	175,307	78,028
フリーキャッシュ	160,616	245,334	84,718
借入金償還額	89,229	91,923	2,694
キャッシュ残 (家計、税金支払い、再投資に利用)	71,387	153,411	82,024

注1)集計農家は東電賠償に関わる農家を除いた53戸である。
 注2)各年、同じ農家をサンプリングしている。
 注3)フリーキャッシュ=家族所得+減価償却費-育成振替高+廃牛売却原価である。
 注4)その他経費は「種苗費」「肥料費」「農具費」「作業衣料費」「賃借料」「諸材料費」「荷造り運賃手数料」である。

家からは「もはや副産物とは言えない。」との声も聞かれています。ただし、和牛E.Tを積極的に進め、肉廃の割合を最大化された方は売上高の伸びがさらにもう一段大きかったため、収入に差が付いているのも事実です。セリの単価に一喜一憂するのではなく、後継牛の確保や収入を最大化する戦略を検討しましょう。

(3) 飼料費高騰が一段落

輸入飼料価格が落ち着いてきたことから飼料費は6,937円/頭減となりました。生乳売上高も増加していますので、乳飼比と比較しても平成26年58.0%↓平成27年55.8%と△2.2%となり、生乳生産効率も向上したと言えるでしょう。しかし、総支出が1,098,387円であるのに対し、生乳売上高は977,497円しかありません。このことは、生乳の売上だけで酪農経営は成立しないことを示しています。DMSのデータベースを見てみると、総支出を生乳売上高が上回った酪農家の割合は約20%です。酪農経営を安定させるためにも、生乳売上高で全てのコストをまかなえる経営形態や

(4) 投資が増加しています。

東北大震災以降、投資を控える傾向が強くなり、減価償却費の減少が続いてきましたが、平成26年以降、補助事業を利用した機械類の更新、初妊牛の導入が進んでいます。酪農意欲の高まりを感じますが、資金繰りを充分検討し、取り組んでいきましょう。

(5) 消費税の資金準備をしましょう

酪農経営をキャッシュフローで見ると、家計で利用できる現金も82,024円/頭増加したことが分かります。余剰資金があるとき

は、①運転資金の確保、②生産性向上を伴わない投資(堆肥舎等)、③後継牛確保の備え、をする丁度良いタイミングです。中期的な投資計画を作成してみましょう。

昨年は、子牛価格が高かったことから、消費税納税額が大幅に増えたことに驚かれた方が多かったようです。資金繰りの管理がより一層重要になります。乳代精算額の10%程度は消費税支払の準備資金として積み立てておきたいところです。

3 DMSシステムは SaaSに移行中です

DMSシステムで紹介している会計ソフト『酪農経営』は平成26年からSaaS化を進めています。SaaS化とは、インターネットで利用できるソフトのことで、データはインターネット上に保存されることになります。個人情報保護の保守、複数の同時ログインが可能になることからサポートや利便性がさらに厚くなります。

今後のDMSシステムにご注目ください！

名古屋
支所発

「美濃酪連 2016酪農まつり」開催される —岐阜県 美濃酪農農業協同組合連合会—

6月4日(土)、美濃酪農農業協同組合連合会(朝日修代表理事長)のひるがの北濃牛乳工場において「美濃酪連 2016酪農まつり」が開催されました。

参加者は限定150名で(毎年応募者多数のため抽選となります)、午前の部・午後の部に分かれて、工場見学、バターづくり、牛乳・乳製品の試飲・試食、搾乳体験等のイベントが行われました。

当日は土曜日ということで子供連れのご家族が多く、お子さんたちは大喜びで搾乳体験をしたり、牛乳パックを使った工作に挑戦していました。また、お父さんお母さ



んたちもお子さんと一緒にイベントを楽しんだり、工場見学ではスタッフの説明に熱心に耳を傾けて質問をする姿が見られました。

参加者の方にとって、身近な食品である牛乳・乳製品について理解を深めるよい機会になるとともに、家族団らんの充実した1日となったようです。

こうした取組により、牛乳・乳製品のファン、美濃酪連サポーターがさらに増えることを期待してやみません。

(Y.K)



名古屋
支所発

「牛乳の日・牛乳月間2016キャンペーン」 の開催について

今年も牛乳の日・牛乳月間にあわせて、名古屋支所管内でさまざまな取組が行われました。

6月1日(水)に名古屋駅前において、愛知県酪農農業協同組合(杉浦弘泰代表理事組合長)主催の牛乳の日キャンペーンが行われ、通行者に牛乳の日をアピールし、パンフレットとミルク1,000個を配布しました。当日は、愛知県牛乳



普及協会・東海酪農農業協同組合連合会・全酪連も参加しました。

6月4日(土)には、

三重県酪農農業協同組合連合会(谷川原万欣代表理事長)主催の牛乳月間キャンペーンが伊勢神宮外宮前の広場にて行われ、パンフレットとミルク1,000個を配布しました。

岐阜県においても同様の取組を5月28日(土)に県内5か所において開催しました。(Y.K)



大阪
支所発

“牛乳の日”に兵庫県知事を訪問 —兵庫県酪農農業協同組合—



▶ 牛乳で乾杯(右から3人目井戸知事、
右から2人目丸尾組合長)

6月1日(水)牛乳の日に、兵庫県酪農農業協同組合は丸尾建城組合長を代表として、阪神地区、播州地区、丹但地区、淡路地区の4地区の生産者代表が兵庫県庁を訪問し、井戸敏三県知事と県産牛乳の消費拡大、県内酪農情勢や酪農施策などについて懇談しました。

井戸知事は、ざっくばらんに生産者の方の経営概況などを聞きながら、県としてできる酪農施策の検討などの話をされました。最後に県産牛乳の消費拡大に向けて、参加者全員が県産牛乳で乾杯をしました。

(I.Y)

福岡
支所発

芹川恵介さん(経営・熊本)、横井直彦さん(意見・沖縄)が全国大会へ! —第45回九州酪農発表審査会—



▲ 小園千弘委員長による
開会挨拶

熊本・大分県の大地震により中止となった九州酪農青年女性酪農発表大会の代替として、九州代表を選出するための発表審査会が、6月6日(月)リファレンスはかた近代ビルにおいて、発表者・審査員・九州酪農青年女性会議委員など計52名を参集し開催されました。

酪農経営発表の部は、3名が発表。芹川恵介さん(熊本県)が作業・経営の効率化について、中村大輝さん(宮崎県)が乳肉複合経営について、成清伸明さん(福岡県)が増頭時の経営の立て直しについて、それぞれの創意工夫を凝らした内容が発表されました。

酪農意見・体験発表の部では、重見宝弘さん(大分県)、小川久子さん(佐賀県)、高野修平さん(福岡県)、白河洋人さん(鹿児島県)、掘越直人さん(長崎県)、横井直彦さん(沖縄県)の6名が発表。それぞれの方が信念を持って酪農に取り組まれており、会場に集まった酪友も熱心に耳を傾けていました。

発表終了後、各部門の審査会が行われ、審査講評、褒賞授与が行われました。酪農経営の部の最優秀賞(九州農政局長賞)には、「酪農の魅力「ゆとり」を作りだす酪農経営」と題して発表された芹川恵介

さんが選出されました。田中正仁審査委員長(九州沖縄農業研究センター 上席研究員)は、「週休1日体制のゆとり酪農の実現は、長時間のきつい労働のイメージを払拭し、今後の後継者の確保と酪農のさらなる発展に大きく寄与することと思う」と講評されました。

酪農意見・体験の部の最優秀賞(九州農政局長賞)には「義務教育中酪農家につき」と題して発表された横井直彦さんが選出されました。内ヶ島賢勇審査委員長(九州酪農青年女性会議 顧問)は、「沖縄の方の人柄・温かさに惹かれ、新規就農された横井さんには、今後、沖縄、ひいては九州を引っ張る人材になっていただきたい」と講評を述べられました。

熊本を中心に、大地震により甚大な被害があった九州ですが、発表や空き時間の中でも互いを励まし合い交流する姿に、九州の酪友の絆を感じた1日となりました。

(K.S)



▲ 経営の部
最優秀賞 芹川恵介さん



▲ 意見・体験の部
最優秀賞 横井直彦さん

福岡
支所発

今年も開催！「ハッピーミルクフェスタ2016」！ 主催：九州生乳販売農業協同組合連合会

6月4日(土)、福岡市中央区の三越ライオン広場において、九州生乳販売農業協同組合連合会(尾形文清代表理事会長、以下九販連)主催の「九州Love Milk Club presents FM Fukuoka ハッピーミルクフェスタ2016」が、地元福岡の酪農家さんやふくおか県酪職員などにも参加いただき、盛大に開催されました。

酪農に対する理解醸成と牛乳消費拡大につなげることを目的として開催されたこのイベント。当日はあいにくの雨となりましたが、屋根付きの広場は多くの来場者で賑わいました。

会場内のブースでは、親牛模型を使った搾乳体験、子牛模型での哺乳体験、MILK JAPANのクイズコーナーやステージでのショーなど多彩なコーナーが盛り沢山。初めての開催となった「ぴったり飲みまショー」では、目隠しされた参加者が指定された量の牛乳をぴったり飲む

のに苦労されており、盛り上がりを見せていました。お昼には尾形会長のトークショーも行われ、生産者と消費者の距離の近さや九州産牛乳の安心感を伝えると、来場者も真剣に耳を傾けていました。

会場内には酪農家の1日の仕事サイクルを説明したパネルの展示や九州内の乳業メーカーの牛乳パック・乳牛の飼料が並べられており、酪農家さん自らが飼料について説明される姿は印象的でした。

そして、会場周辺では地元福岡の酪農家さんが中心となってリーフレットとミルクメーカーの配布を行い、通行人の方々に牛乳の消費拡大と酪農家の現状を呼びかけていました。8年目を迎え、今年も工夫を凝らしたイベントは盛況のうちに終了しました。

(K.S)

▶ 親牛模型の搾乳体験



◀ 尾形会長による
トークショー



▲ 会場周辺でのリーフレット配布



◀ ぴったり飲みまショー

▶ 牛乳ヒゲゲコンテスト



▲ MILK JAPANクイズコーナー



▲ 左から 千春さん、穂風ちゃん、経営主の常雄さん、常悠くん、常浩さん、祐子さん、瑞樹くん

No.278
齋藤牧場
宮城県涌谷町

『循環型酪農を地域の仲間と継続を』

地域の概要

今回お訪ねした齋藤牧場がある宮城県涌谷町は、県の北部に位置し、平野部には水田が広がり、町のほぼ中央にある^{のだけ}笹岳山頂上からは視界をさえぎるものがほとんどなく、眺望に優れ、仙北平野の水田地帯はもちろんのこと、遠く岩手県の山々や牡鹿半島、金華山まで望むことができます。観光名所になっています。また、この町

にある黄金山産金遺跡は、天平21年(749年)に日本で初めて金が採掘され、東大寺盧舎那仏像の建立にあたり金900両(約13kg)を献上したとの記録が残っています。



▲ 齋藤牧場全景



齋藤牧場が所属するみやぎの酪農農業協同組合(伊藤一成代表理事組合長)は、酪農家戸数306戸、生乳出荷数量66,829トン(平成27年度)となっています。

牧場概要

齋藤牧場は、経営者の常雄さん(62才)、奥さんの千春さん(60才)、長男の常浩さん(37才)、嫁の祐子さん(36才)、孫の常悠(つねひさ)くん(6才)、穂風(ほなぎ)ちゃん(4才)、瑞樹(みずき)くん(1才)の7人家族です。

『我が家は、代々古くからこの土地で農業を営み、水稲、養蚕、葉タバコと、昭和33年に乳牛2頭

を導入した酪農経営でした。私が就農した昭和47年に、安定した収入を得るために10頭に増頭し、52年に結婚。61年には和牛牛舎を建て、繁殖も手掛けていた時期がありました。平成2年に28頭の乳牛用牛舎を建て酪農を主体とし、平成10年にはそれまでの和牛牛舎を片側12頭の乳牛用に改装しました。現在はそこに乾乳牛・育成牛を繋いでいます。また、昨年には20頭分の牛舎を増築し、現在は経産牛が44頭、未経産5頭、育成牛11頭の規模になりました。

平成20年に戻ってきた息子に、搾乳、繁殖を任せています。家内は給餌と哺乳を担当し、私は搾乳と育成牛、分娩前後の牛を見えます。夕方の作業の下準備を任せているパートさんを含めて、4名で作業をしています。』

後継牛は自家育成主体

『自家育成主体での増頭でしたが、息子が就農した前後はなぜかオスばかりが生まれて。不足を補うための導入牛も、オスの出

生でした。息子の助言もあって性選別精液を使い始め、順調にメスが増えてきました。基本的に我が家の牛群は長命連産を目指しています。平成21年から取り組んだ和牛受精移植は、受精師さんとの連携のもと順調に展開しています。現在の高値には驚いていますが、経営には大いに助かっています。今後も繁殖和牛が少なくなるでしょうか。そう値は下がらないかなと思います。これに頼ってはいけません。後継牛が減っていますから、未経産牛には性選別精液を付けていますが、優良後継牛確保のためにも経産牛にもつとホルスを付けてもいいと考えます。後継牛は購入で対応と考えている酪農家もいますが、後継牛の高値や減少によって買えなくなりますからね。』

周辺農家と耕畜連携

『自給飼料は、以前は永年性牧草と転作のスーダン、コーンハーベスターによるデントコーンでしたが、夏場の二次発酵や収穫



▲ 涌谷町飼料増産組合のメンバーと

作業の大変さなどから一時期栽培をやめていました。そんな折、6年前に4戸の酪農家と1戸の繁殖農家で『涌谷町飼料増産組合』を立ち上げました。汎用型収穫機を導入し、組合員やその後継者の協力で運営しています。稲ホールクroppサイレイジ(WCS)やデントコーンの適期収穫を心がけ、酪農家や畜産農家に利用してもらっています。作業時期は「あそこの農家の収穫作業をしなくちゃ」って、自分

たちの作業を後回しにして飛び回っています。汎用型収穫機でのロールはその日に使い切りません。二次発酵の心配はありません。ネズミが時々齧りますけど(笑)。ルーサンとチモシーを若干購入していますが、自給飼料でほぼ賄えています。』

『また、自分の水田もあることから、9年前には周辺農家30戸ほどで営農組合を立ち上げ、その組合長をやっています。水田転作の作業委託により、稲WCSとデントコーンの栽培をしています。同じ集落ですので、仲



▲ ベールカッター



▲汎用型収穫機

間意識、共同意識はありますね。堆肥は、稲ワラとの交換による環境保全米の栽培推進や転作田での使用、近隣農家への販売と、処理に困ることはありません。堆肥の水分調整には近くにあるCEから出るもみ殻を利用し、良品質の堆肥生産を心がけています。

農地中間管理機構事業により水田作業が増えていきますので、農繁期は忙しくなりますね。こ



▲良質なたい肥

の地域も高齢化や後継者不足がジワジワ押し寄せてきています。作業を頼まれれば断るわけにはいかないし、信用、信頼されているんだと自分や家族に言い聞かせ、臨時雇用を利用しながら対応しています。』

『地域への貢献や繋がりは大切にしたいですね。これはちゃんと維持していかないと。昔からこの辺りは水田地帯でしたが、多くの農家は稲作と牛、豚、鶏などの家畜を飼っていました。今は酪農家、畜産農家は僅かです。堆肥の供給、稲ワラ交換、共同作業など、地域には畜産農家が必ず必要なので

す。幼稚園や散歩中の人が「牛を見せてください」って時々見学に来ます。環境面をきちんと整備して、近所の方達ともきちんとお付き合いをし、多くの人に動物、生き物と触れ合える場所を残していきたいですね。』

将来は…

『現在62才。3年もすれば農業者年金をもらう年になります。それまでには経営移譲をと考えていますけど。その頃は息子も40才。農場の法人化もメリット、デメリットを慎重に検討しながら取り組んで行きたいですね。クラスター事業などの導入を行いながら経営の合理化、省力化により農業の素晴らしさを発信していつてほしいですね。』

『息子の常浩には、「長男だから後を継げ」って死んだ母親がよく言っていましたよ。常浩は獣医になりました。常浩は、東京農大で大根持つてばかりいました(笑)。卒業後は、社会勉強をしてこいと言っていました。息子はいつかは戻らな

ければとずっと考えていたようです。戻ってきてくれたので、飼料増産組合や営農組合を立ち上げて地域のみんなと一緒にできるようになりました。労働力的にも心の気持ちにも余裕ができて、先を考えられるようになりましたね。

今後ですか？規模拡大は、今の労働力を考えると簡単ではないですね。私たち夫婦も年取りますし、そうなつてからの経営を考えると少し心配な面もありますが、後は息子夫婦が何とかするでしょう。』

最後に

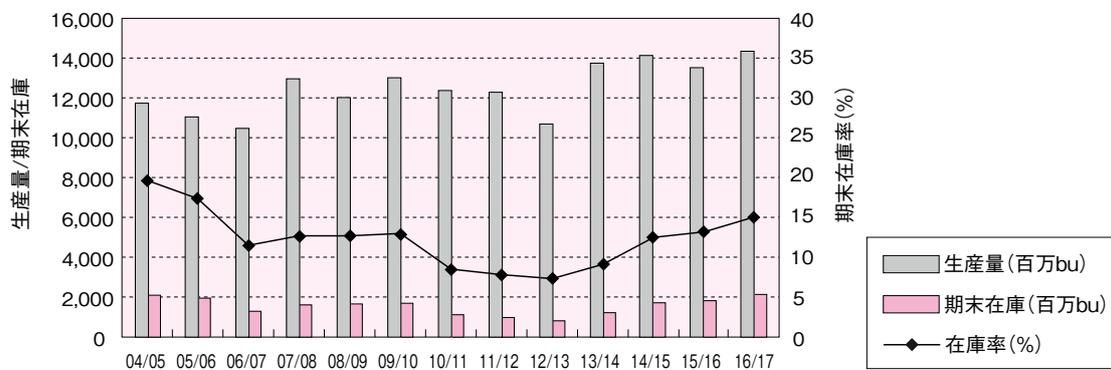
4Hクラブで知り合った奥さんは牛とは関係ないところから嫁いで来たそうです。

『以来38年間、十分力を発揮してくれました。ここまでやってこられたのは、良いパートナーに恵まれたおかげです。毎年1泊の家族旅行に必ず行っていますけれど、この後も家族が同じ方向を目指し、余裕のある経営を続けていきたいと思っています。』

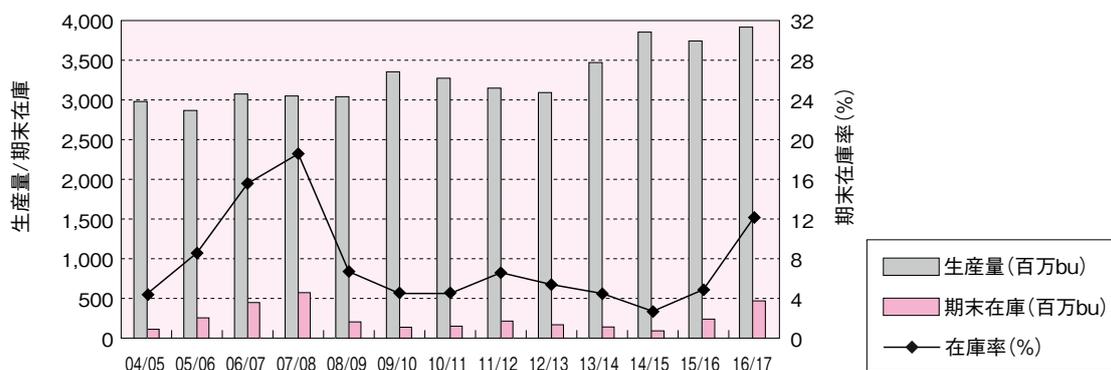
原料情勢 平成28年6月

6月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	<p>【15/16年産】 作付面積88.0百万エーカー、単収168.4bu/エーカー、生産量136億100万bu、総需要量136億8,500万bu、期末在庫17億800万bu、在庫率12.5% 需要供給面で増加し、期末在庫は減少した。</p> <p>【16/17年産】 作付面積93.6百万エーカー、単収168.0bu/エーカー、生産量144億3,000万bu、総需要量141億7,000万bu、期末在庫20億800万bu、在庫率14.2% 供給面で減少、需給面で増加。期末在庫は減少した。</p>
トウモロコシ 相場動向	先月の発表以降の動きは、ブラジル産地での高温乾燥気候による2期作目のトウモロコシへの懸念は依然として解消されず、さらに米国産地でも高温乾燥懸念が出てきたことによりシカゴ相場は強含みで推移した。また、世界のトウモロコシ需要が米国産に回帰していることも追い風となり、節目であった400¢/buを超えた。今後のシカゴ相場はブラジルで北部は早魃の影響が伝えられているが、追い打ちをかけるように南部で霜害の可能性が出てきおり、相場は強含みで推移していくと思われる。
6月10日発表 米国農務省 大豆需給予想	【16/17年産】 作付面積82.2百万エーカー、単収46.7bu/エーカー、生産量38億万bu、総需要量39億4,000万bu、期末在庫2億6,000万bu、在庫率6.6% 需要面で増加し、供給面で減少した。
大豆粕相場動向	米国産の相場は、市場予想以上に期末在庫が減少したことから買われて、前日比+2¢1/4の1,078¢1/4(7月限)で当日の取引を終えている。国内産は、発生量も順調に横ばいで推移している。価格面ではシカゴ相場の上昇を受けた原料大豆価格の高騰を受け、強含む展開。輸入品は引き続き中国品が中心となるが、中国国内で菜種粕相場高騰により大豆粕需要が増加していること、シカゴ相場に連動した原料大豆の高騰を受け、価格は強含みで推移している。
槽糖類	<p>【一般フスマ】 今期、グルテンフィード対比で小幅な値下げとなり需要の減少が懸念されたが、牛用で需要が堅調であったため、今のところ需給は均衡を保っている。鶏豚用ではグルテンフィードへの置換が進んでいるが、夏場を迎えフスマは非発生期を迎えるため、需給は堅調に推移するものと思われる。</p> <p>【グルテンフィード】 国内では夏場に向かいコーンスターチ、異性化糖の需要が増加することから、発生量は増加傾向にある。一方で輸入は中心となっている中国品の価格が上昇している影響を受け、日本向けの輸入は大幅に抑えられている状況。これらの状況を受け相場は横ばいで推移するものと思われる。</p>
海上運賃	引合いは閑散としているものの、原油価格が\$50を上回り堅調に推移している。船腹需給は依然として緩いが、米国メキシコ湾積み(ガルフ積み)は引き合いが強い。新パナマ運河が今月から通航開始されるが、この新運河を通航できる穀物船は、日本の大半の港で喫水制限に引っかかってしまうため現時点では海上運賃にはメリットがない。用船料の上値は重いものの、海上運賃は堅調に推移していくと思われる。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成28年6月

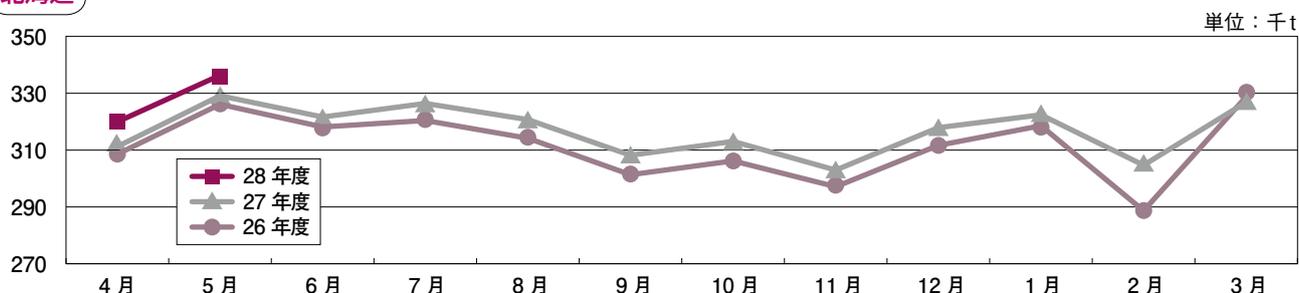
北米コンテナ船 フレート	北米関連の海上運賃は依然として船腹に余剰感があり、過去最低レベルのまま推移しているが、5月中旬から原油価格が徐々に値上がりはじめており、今後、値上げを要請してくる可能性が高まっている。また、世界の他航路の海上運賃も5月以降、随時値上げがなされており、日本からの輸出向け海上運賃についても、7月積み以降の契約で若干の値上げで成約され始めている。これら他航路の動きは、今後の北米-アジア航路の運賃にも影響を及ぼすと考えられるため注視していく必要がある。
ビートバルブ	【米国産】新穀の作付は5月中旬をもって全域で終了。作付面積はほぼ前年並みだが、単収については今後2～3か月の天候、生育環境に大きく依存するため、今後の天候次第。今期の単収が例年並みと仮定すると、昨年の単収は例年より多かったことから、生産量は前年と比べるとやや減少する可能性がある。
アルファルファ	【ワシントン州】コロンビアベースン南部では例年よりも2週間ほど早い4月下旬から刈取りが始まり、5月5日頃からはコロンビアベースン全域で刈取りが本格化した。刈取り開始後しばらくは好天が続いていたが、5月14-15日および5月20-21日に降雨が記録され、降雨被害が発生した模様。コロンビアベースン全体の1番刈の収穫はほぼ終了しており、現時点で1番刈は50-60%程度が雨当たりと予想されるが、作柄や品質状況の全容を見極めるには、もう少し時間が必要。現在2番刈が生育中で、6月上旬には100°F(38℃)を超える予報も出ているため、今後生育が一気に進み刈取りのスケジュールが早まる可能性がある。
	【オレゴン州】オレゴン州クラマスフォールズでは5月20日に降雨があったものの、刈取りは一部圃場で5月下旬からスタートしており、6月上旬まで降雨予報が出ていないため、良好なコンディションでの収穫が期待される。内陸のクリスマスバレーでは5月20日、21日に降雨があり、その後数日60°F(15℃)以下の日があったものの、現在は例年並みの気温に戻っている。このエリアでは6月10日前後から刈取りスタートの見込み。
	【カリフォルニア州】カリフォルニア州北部では、一部地域で1番刈の刈取り直後の降雨により、輸出向けの上級品の発生は非常に限定的となっている。現在2番刈が始まっているが、こちらも降雨による被害が多い模様。カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは3番刈が終盤を迎えており、早い圃場では4番刈が始まっている。現地では本格的に気温が上昇し始め、最高気温は100°F(約38℃)程まで上昇し始めており、現在収穫中のものは1番刈や2番刈に比べて低成分のものが多く発生している。
チモシー	【米国産】コロンビアベースン南部では5月23日の週の前半、中部でも同週の後半から刈取りが始まった。気温は5月最終週から80F(26℃)以上で、天候も安定との予報となっており、今後も順調に収穫が進むことが期待されている。キティスバレーでも5月最終週から刈取りが開始されており、例年より数週間早いスケジュールで進捗している。天候も比較的安定するとの予報もあり、総じて昨年よりは作柄は良化する可能性が高くなっている。
	【カナダ産】主産地アルバータ州の南部レスブリッジでは、生育は順調な模様で7月1週目頃から刈取りが開始される見込み。冬場は乾燥傾向だったものの、春先からは適度な降雨もあり、5月に入ってからは気温も上昇してきている。中部クレモナでは、5月に入っても早魃状態が続いたが、5月3週にようやく降雨が観測された。2016年産カナダチモシーの作付面積は、南部レスブリッジで微増、中部クレモナで横ばいと予想されており、天候および生育が順調であれば全体の生産量の増加が期待される。
スーダングラス	インペリアルバレーでは5月中旬から16年産スーダングラスの1番刈りの収穫が始まっており、5月下旬の時点で一部ではベアリングもスタートしている。現地では5月6日と5月16日夜から5月17日にかけて降雨が観測され、特に16日～17日の降雨は局地的に降雨量が多く風も強かったと言われており、雨あたりや倒伏が一部で発生したとの情報はあるものの、被害は限定的で大勢には影響がないと見られる。6月1日発表の作付面積は37,268エーカーで小麦の高騰で早播きスーダンが激減した前年の同月と比べても97%と急激に作付のペースは鈍化してきている。生産農家にとって新穀の価格動向に期待が持てないことが要因と思われ、最終的な作付面積は早播きが大幅に減少した15年産並みに留まると多くのサプライヤーは予想している。
クレイングラス	クレイングラスは全酪連の登録商標です。16年産クレイングラスの1番刈は早い圃場では4月下旬から始まり、5月末時点では終盤を迎えており、早い圃場では2番刈が始まっている。5月中旬の降雨の影響は限定的なようで、現在のところ収穫の進捗は良好な模様。一方で、生産農家にとって魅力ある価格ではなくなりつつあるため生産意欲が減退し始めており、夏以降、転作や休耕に入る圃場が増え、生産量が減少する可能性が懸念されている。
ストロー類	先月発表された米国農務省の16年産ライグラスとフェスクの作付面積予想は昨年と同水準から若干の減少となった。産地であるオレゴン州ウィラメットバレーの収穫は7月から開始される予定。15年産ライグラスの産地在庫は順調に消化されているが、例年に比べやや多めで、フェスクは韓国向け中心に出荷は順調な模様。
オーツヘイ	豪州の各産地では新穀に向け準備が進んでいる。西豪州では播種前に十分な降雨があり、土壌水分は十分で、6月上旬までに播種は完了する見込み。南豪州及び東豪州は、4月中まで非常に乾燥した気候が続いていたが、5月に入り数回降雨があり、現在播種の最盛期を迎えている。新穀の作付面積については、西豪州では平年以上、南、東豪州でも平均並みと予想されている。小麦やカノーラなどの競合作物がオーツに比べ価格的魅力がないことから、オーツの作付を一定量確保する動きが要因とされている。旧穀については、引き続き豪州国内及び輸出向けの需要は堅調に続いており、特に中級品以下の供給力は非常に限定的となっている。

生乳受託販売乳量

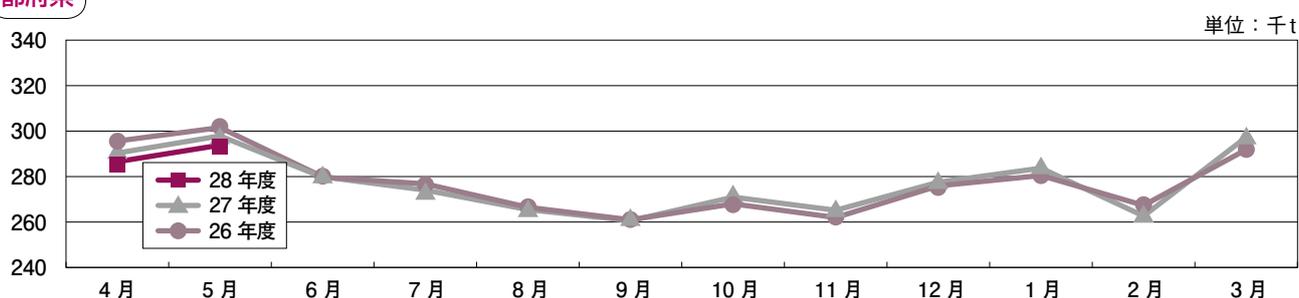
受託販売乳量

全国 630,179t で、前年同月比 3,167t(0.5%) 増加 都府県 293,826t で、前年同月比 4,051t(1.4%) 減少
 北海道 336,353t で、前年同月比 7,218t(2.2%) 増加

北海道

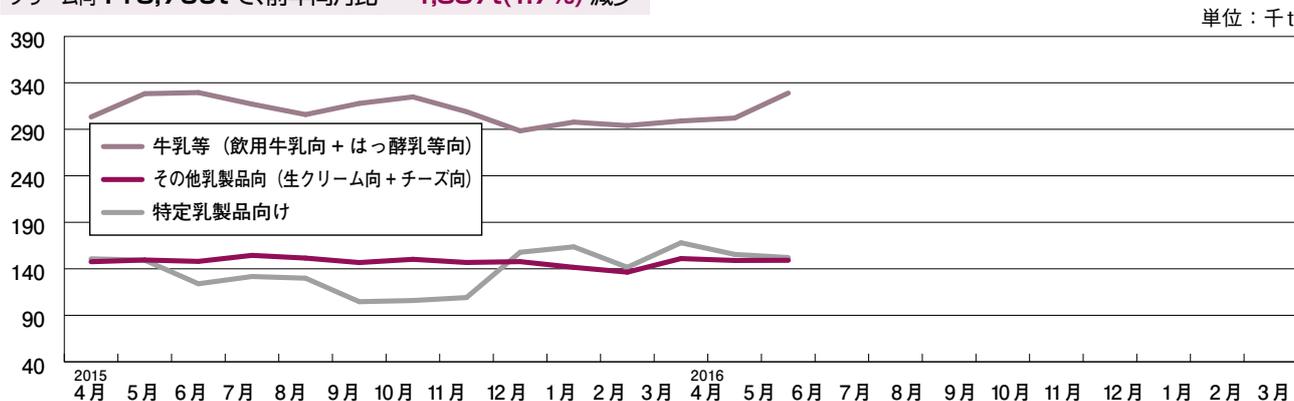


都府県



用途別販売数量

飲用向 288,309t で、前年同月比 297t(0.1%) 増加 チーズ向 35,245t で、前年同月比 1,575t(4.5%) 増加
 はっ酵乳向 38,210t で、前年同月比 349t(0.9%) 増加 特定乳製品向 155,506t で、前年同月比 2,833t(1.9%) 増加
 クリーム向 113,709t で、前年同月比 1,887t(1.7%) 減少



各地の需給動向

- 【東北】生産は前年比 99.6%。全体的に乳業者の処理は堅調に推移。飲用牛乳向け 99.1%、はっ酵乳等向け 108.4%、特定乳製品向け 93.9%。
- 【関東】生産は前年比 98.9%。月間通して販売は堅調に推移。生産減少の影響もあり、特に後半は逼迫感が生じた。飲用牛乳向け 99.1%、はっ酵乳等向け 100.3%、特定乳製品向け 98.4%。
- 【東海】生産は前年比 98.9%。生産における減少の流れは変わらず。乳業者処理は、好天の影響か下旬に逼迫感が生じていた。飲用牛乳向け 98.9%、はっ酵乳等向け 99.1%、特定乳製品向け 92.3%。
- 【近畿、中国、四国】生産量は、各地昨年種の種付けが順調であり、乳量を維持できた様子。近畿 98.3%、中国 101.5%、四国 99.7%。処理GW期間中は伸びなかったが、下旬は好天の影響もあり伸びた。飲用牛乳向けは近畿 98.4%、中国 103.7%、四国 104.1%。
- 【九州】生産は前年比 97.2%。乳業者処理は、上旬は見込みより下振れ。下旬からは、夏が続いた影響もあり伸びた。飲用牛乳向け 96.6%、はっ酵乳等向け 100.8%、特定乳製品向け 97.4%となった。

用途別生乳処理量

単位：千t

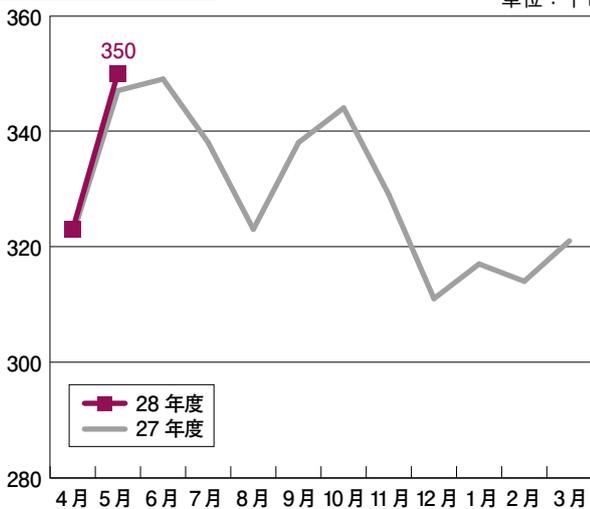
年月	生乳生産量	用途別処理量計							年月	生乳生産量	用途別処理量計						
		乳製品向									乳製品向						
		牛乳等向 ①	特定乳製品向 ②		その他乳製品向			牛乳等向 ①			特定乳製品向 ②		その他乳製品向				
クリーム向 ③	チーズ向 ④		クリーム向 ③	チーズ向 ④	クリーム向 ③	チーズ向 ④											
2015. 4月	625	620	322	298	148	150	114	37	2016. 4月	633	626	323	303	157	145	108	37
5月	649	644	347	297	151	146	109	37	5月	653	649	350	299	152	147	108	39
6月	625	620	349	271	126	145	107	38	6月								
7月	629	624	338	286	133	153	110	43	7月								
8月	608	604	323	281	133	148	107	41	8月								
9月	593	588	338	250	107	143	107	36	9月								
10月	603	599	344	255	107	148	111	37	10月								
11月	588	584	329	255	110	146	110	36	11月								
12月	620	616	311	304	158	147	109	37	12月								
2016. 1月	627	623	317	305	165	140	101	39	2017. 1月								
2月	595	591	314	277	142	135	100	35	2月								
3月	644	639	321	318	170	148	109	39	3月								
年度計	7,407	7,352	3,953	3,398	1,649	1,749	1,295	455	年度計	1,287	1,275	673	602	309	292	217	76

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

単位：千t未満を四捨五入した数値を標記しているため、各項目の合計と表の合計とが合致しない場合がある

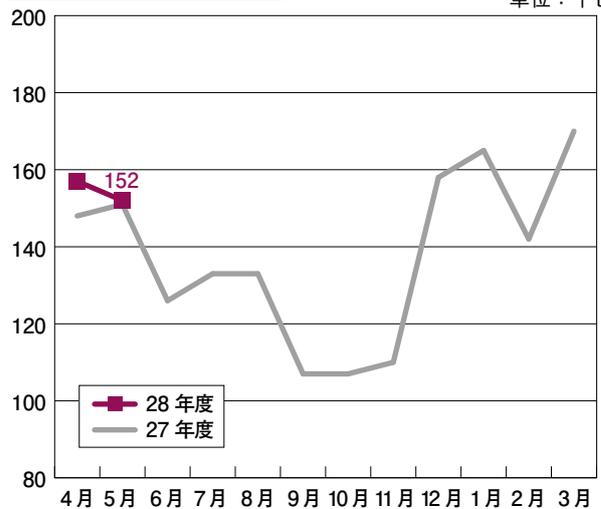
① 牛乳等向処理量

単位：千t



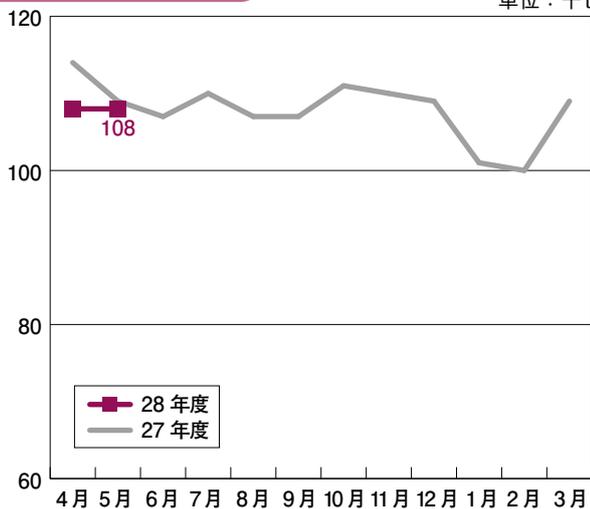
② 特定乳製品向処理量

単位：千t



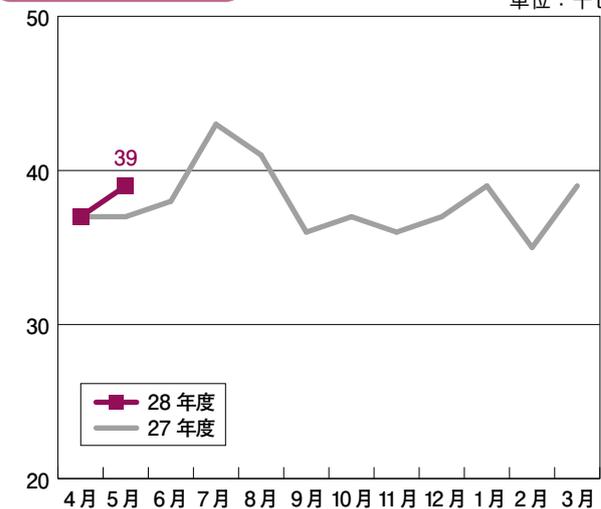
③ クリーム向処理量

単位：千t



④ チーズ向処理量

単位：千t



酪政連活動報告

平成28年5月～6月

日本酪農政治連盟

5/16	<p>三役会、常任・中央合同委員会を開催 (於:自由民主党)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆政府の規制改革会議の指定団体制度廃止に対する取組みについて平成29年度酪農政策・予算確保について等を協議 ◆自民党酪政会の役員等主な先生方をお招きして要請、協議等を実施 	5/27	<p>南信酪農協 通常総会に出席(事務局長)</p>
5/17	<p>自由民主党東北酪政会総会が開催されました</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆東北ブロック協議会の委員が同席、政府の規制改革会議の指定団体制度廃止に対する取組みについて協議(於:自由民主党) ◆自由民主党東北酪政会として、「規制改革会議に関する指定生乳生産者団体制度についての申し入れ」を決議し、斎藤副大臣等に対し申し入れを実施 	6/3	<p>関東地区酪政連協議会の通常総会を開催 (東京八重洲ホール)</p> <p>第1号議案 平成27年度運動報告並びに収支決算承認の件 第2号議案 平成28年度運動方針並びに収支予算承認の件 第3号議案 平成28年度会費賦課方針決定の件 第4号議案 任期満了に伴う役員改選の件</p> <p>を上程し、全議案共に原案どおり可決承認される</p>
5/26	<p>岩手中央酪農協 通常総会に出席(幹事長)</p>	6/10	<p>三役会を開催(於:酪農会館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆参議院議員選挙対応について ◆平成29年度酪農政策・予算確保について等を協議

酪政連が熊本県酪連、九州生乳販連を見舞う

5月20日(金)、日本酪農政治連盟の佐々木勲委員長と山下俊忠副委員長が、熊本地震により甚大な被害を受けて復旧に鋭意取り組んでいる熊本県酪連、九州生乳販連を訪問し、見舞金を贈呈しました。

佐々木委員長らは、熊本県酪連から酪農家、乳業工場、事務所等の被害状況、役職員一体で復旧に取り組む、なんとか乳業工場の再稼働ができたこと、また、生乳生産量も被災前の状態近くまで回復してきたこと等を、九州生乳販連からは廃棄乳を最小限に抑えるため、指定団体の広域流通機能を駆使して配乳に奮闘したこと等を伺いました。

佐々木委員長は、これまでの両者の大変な努力を労うと共に、未だ余震が収まらないなか今後とも頑張ってくださいよう激励しました。



▲ 右から熊本県酪連の吉田会長、酪政連の佐々木委員長、山下副委員長



▲ 右から九州生乳販連の裨島販売部長、小野総務部長、酪政連の佐々木委員長、山下副委員長

北海道 乳牛産地情報

平成28年7月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	45~55	→	札幌管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計99.0%、累計で98.6%、苫小牧管内月計で97.6%、累計で98.4%の実績となっております。 7月の札幌管内の初妊牛動向は、夏分挽腹中心となり都府県の需要低下と購買客の減少により、相場はやや弱含みで推移するものと思われます。牛なりに大きく価格差が付く状況となっており、牛が良ければ高値が付きますが並みからスノ物は値段が付きづらくなるものと思われます。
	初妊牛	55~65	⇩	
	経産牛	50~55	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	45~55	→	根釧管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で103.7%、累計で104.7%、中標津管内月計で101.7%、累計で102.5%の実績となっております。 7月の釧路管内の初妊牛動向は、9月から10月上旬分挽腹中心で取引されます。例年であれば導入需要は下がる時期ですが、6月の乳牛市場が堅調な展開であったことや、引き続き道内の導入意欲が強い事に加え、都府県のメガファームを中心とした導入意欲が強い事、販売に供される資源も豊富とは言えない事により相場は堅調に推移するものと思われます。
	初妊牛	65~70	⇩	
	経産牛	50~55	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	45~55	→	帯広管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.2%、累計で104.2%の実績となっております。 7月の帯広管内の初妊牛動向は、8月~9月上旬分挽腹を中心となる見込みです。育成農家は需要の薄くなる8月腹になるのを防ぐために授精を調整することもありますので、8月分挽予定については酪農家からの出品の割合が増加すると思われます。都府県の需要は低下するものの、依然として道内の引き合いは強いいため、大きな値下がりはないものと思われます。育成牛に関しては春生れの育成牛は依然として引き合いが強くなり高値で取引されるものと思われます。
	初妊牛	60~68	⇩	
	経産牛	52~58	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	45~55	→	道北管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で102.1%、累計で102.0%、北見管内月計で100.8%、累計で100.5%の実績となっております。 6月の道内市場で夏分挽の流通により価格も弱めから横這いで推移しましたが、7月に入り9月~10月分挽中心となり、例年のごとく先取りが予想されます。価格的には道内の需要は依然と高いことから横這いから若干強含みで推移することが予想されます。
	初妊牛	63~67	⇩	
	経産牛	45~50	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	45~55	→	道内の6月中旬までの生乳生産量前年比は102.3%、累計で102.4%の実績となっております。 7月の道内の初妊牛動向は、9月分挽腹が中心に取引されますが、道内の乳牛市場は7月上旬から8月下旬までは開催されないことから、10月上旬分挽腹も乳牛市場や庭先購買で取引されるものと思われます。都府県の夏分挽腹の需要は少ないですが、依然として道内需要は高いことから、価格的には「横這い」で推移するものと思われます。 この時期、多くの牛が放牧されていることから、購買予定がありましたら早めのご連絡をお待ちしております。
	初妊牛	63~68	→	
	経産牛	52~58	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

ママ、まかせてね!

今月の表紙は、「第6回酪農いきいきフォトコンテスト」(第44回全国発表大会にて開催)で応募いただいた作品(熊本県 齊藤 幸氏 撮影)「ママ、まかせてね!」です。力いっぱいお手伝いしている姿がたくましく思えるお写真ですね。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

ければ幸いです。

▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

伝えたいですね。

▼今年も全国各地で「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーンを開催中です。牛乳を添えてお父さんを含め大切な人に「ありがとう」の気持ちを伝えたいですね。

編集後記



平成28年7月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
 MEMBER'S INFORMATION
 全酪連会報 7月号 No.610

●編集・発行人 大森 一幸
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
 TEL 03-5931-8003
 http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品介绍

お母さんの牛乳 最高!

岡山市立芳泉小学校(西日本)5年 岩谷 龍



特選

今月の入賞作品は、全国酪農青年女性会議主催の「第43回らくのうごどもギャラリー」で全国674点の応募作品から「特選」に選ばれた岡山市立芳泉小学校(西日本)5年の岩谷 龍さんの作品です。母牛の乳に鼻を押し付けて懸命にミルクを飲む子牛の様子が生き生きと描かれています。黒くつぶらな瞳や柔らかそうな毛並みの描き方、母牛の乳の繊細な色使いから生命力の力強さと母牛の愛情に包まれた子牛の安心感が伝わってきます。

主催 全国酪農青年女性会議